

梅とうぐいす 太宰府天満宮 × 鹿見島睦 × 鈴懸

毎春、太宰府天満宮の境内は、御神木 飛梅の開花を皮切りに、約六千の梅の花が放つ馥郁たる香に包まれます。その梅の花をモチーフに、陶芸家・アーティストの鹿見島睦が描いた図案が、博多の老舗和菓子店「鈴懸」の職人の卓越した技により、お干菓子「梅とうぐいす」となりました。

さらさらときめ細かい粒子の和三盆糖を贅沢に用いた、なめらかな口どけと優しい甘さが特徴の上品なお菓子。木箱に詰められた五つのうちの一つには、大陸より大宰府にもたらされたスパイス 桂皮末（シナモン）が練り込まれています。かつて「遠の朝廷」と称された「大宰府政庁」が置かれた大宰府は、アジアと日本の文化が交差した場所だったのです。

また、鹿見島睦の図案を目でもお楽しみいただけるよう、やや大きめに作られたフォルムは、花卉のディテールやうぐいすの表情までもが、図案に忠実に表現されています。

日本茶のお茶うけとしてはもちろん、コーヒーや紅茶と共に、また、ワインやシャンパンなどのアミューズとしてもお楽しみいただけます。天神さまがこよなく愛された梅の花のように、お干菓子「梅とうぐいす」が皆様に愛されるお菓子となれば幸いです。



和三盆



ヨモギ



和三盆



梅



桂皮松

鈴懸 すずかけ

創業90余年の博多の和菓子店。「現代の名工」初代中岡三郎の教えにもとづき、厳選した自然素材のみに由来する味と技を極める一方で、現代にあったデザインやプレゼンテーションにも気を配り、さまざまな世代に愛される和菓子を提案しています。

鹿見島睦 かごしまこと

福岡生まれ。福岡市内にある自身のアトリエにて陶器やファブリック、版画等を中心に制作。日本国内のみならず、近年では世界中にファンが広がっています。陶器にとどまらず、壁画制作や国際的なアートプロジェクトへの参加など、活動の幅は多岐に渡ります。

太宰府天満宮とアートの歴史

太宰府天満宮の御祭神 菅原道真公(天神さま)は、「学問の神様」のほか「文化・芸術の神様」として、古くから崇められています。この文化・アートの擁護者としての天神さまの役割を現代に継承し、それを広く世間に伝えるべく、多彩なアート、デザインの紹介に注力しています。

